## みらい 514号

この通信に掲載の野菜のお届け日

## 2021 年8月 30日~9月 3日

いつも有機野菜をお買い上げありがとうございます。 毎週、旬の情報をお伝えします。







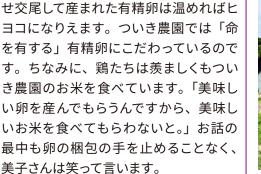






初夏に届くニンジン、ズッキーニ、冬のダイコンなど、どれも記憶に残る美味しさ。それもそのはず、ついき農園は先祖が名古屋から移植して130年続く農家。4代目の築城正行さんはこの道50年。さらには有機 JAS 法が施行される10年以上も前から、農薬、化学肥料に頼らない農業を実践されています。ついき農園の野菜の美味しさの秘訣を築城正行さん、美子さんご夫妻に伺いました。

 ◆農園には直売所 もありさまざま な野菜の販売も
 ▼ 春ニンジンの収穫が全て終わり、秋ニンジ ンが蒔かれていました。除草がビッシリと されています



そして先祖が遺してくれた最大のもの が土地と水だそう。ここの畑は以前、川 が流れていて水持ちがよく、どんなに日 照りが続いても作物が採れないことがな いそうです。実際、初夏に届いたついき 農園のニンジンやズッキーニは、この干 ばつにも拘らずまるまると育っていました ね。そして山から来る水が湧き出ており、 作物全般のかん水に利用されています。 あの美味しいニンジンはこの畑で作られ ています。4月から種を露地に直播して マルチとトンネルで丁寧に保温し、2回ほ ど手作業による除草をして、7月には収 穫を迎えるそうです。ダイコンはまた別 の山の畑で作られているというので、ま たそれも代々伝わる土壌の相性があるの でしょう。

築城家では先祖から何度も聞いている 話があるそうです。「食べ物は命を作る ものであり、農民は命を作るものを作っ ている。土地は天から預かっているもの だから、農民たる者、食べものを作らな



▼ 頑丈な鉄骨のハウス 3 棟に分かれて、白い 雄鶏が数羽同居して鶏が飼われ、農園の お米や野菜の端切れ等を食べます



ければならない」と。「本当は、有機野菜だなんて特別扱いしないで、それが当たり前になればいいのにね。農薬を使うなんて戦後ここ数十年の話で、その前はずっとこの作り方だったんだから。」先人の叡智や思いを大切にして、命をつなぎ、愚直に農民を実践される築城ご夫妻の言葉に、私たちもまた、食べものを理解し、そしてそれを伝えていかなければ、と痛感するのでした。

有機栽培については、先代から正行さんに代替わりするタイミングで始められました。ベトナム戦争の枯葉剤が入った農薬を東京の公園で撒いたことに、エプロンをつけたママたちが子どもを背負ってデモをしていた報道を見て衝撃を受け、無知ほど怖いものはない、と農薬、化学肥料に頼らない農業を始めたのがきっか

けだそうです。

大切にしている先達の教えのひとつが「命は命でつなぐ」という言葉。平飼いの養鶏で有精卵を販売し、鶏糞を野菜作りの肥料に使う循環農法を行っているので、もみ設有機」として農園内で循環しています。「有機」という言葉は、ガラス等の「無機」にひいう言葉は、ガラス等の「無機」にひいう言葉は、ガラス等の「無機」が出て、「生命を有する」という意命は生物をもみ設といった生命はまなります。関行栽培では豊楽では大きのです。慣行栽培では農薬では生物を一掃し、本来微生物が分解して生まれる栄養を化学肥料で代替しますのち、ここでは全く逆。「有機野菜=生命を有する野菜」が体現されています。

養鶏は、「美味しい卵が食べたい」と 美子さんが自家用に 17 羽から鶏を飼い 始め、ご近所に卵を差し上げていくうち に評判となって、今では 1000 羽を飼い 販売に至ります。雌鶏は受精しなくても 卵を産みますので、一般的には無精卵が 流通していますが、雌鶏と雄鶏を同居さ